

まかせてと棚田を渡る風の私語

竹本　タエ子

記念樹の古き名札の人は今

今川　昇

手を振って人違いだと赤面す

磯部　佳子

君だからわがままになるごめんごめん

藤井　節子

猫の手を借りても足りぬ米作り

田中　たづ子

まかせてとたなだをわたるかぜのしご

たけもと　たえこ

きねんじゅのふるきなふだのひとはいま

いまがわ　のぼる

てをふってひとちがいだとせきめんす

いそべ　よしこ

きみだからわがままになるごめんごめん

ふじい　せつこ

ねこのてをかりてもたりぬこめづくり

たなか　たづこ

開かれしお堂の秘仏風涼し

林 保江

草の根を土に泳ぐ目高かな

金内 憲一

小さき手の指のすきまに蛍飛ぶ

貞弘 和子

園庭の揃ひの帽子ゴーヤ植ゑ

村瀧 富子

かわらけに大和心を額の花

馬場 精作

ひらかれしおどうのひぶつかぜすずし

はやし やすえ

くさのねをまんじにおよぐめだかな

かねうち けんいち

ちさきてのゆびのすきまにほたるとぶ

さだひろ かずこ

えんていのそろいのぼうしゴーやうえ

むらたき とみこ

かわらけにやまところをかくのはな

ばば せいさく

短歌

星形や短冊散らす寿しケーキ
独りも楽し七夕の夜

原田 たえ子

空襲の火の中逃げし四姉妹
みな健やかに八十路を超える

椎木 道子

空を切るジェット機音が響く朝
これから防府の夏は始まる

山口 正子

父の日に送りしビール飲む父の
ちよっぴり老いた柔和な笑顔

賤間 星

指折れば今年二十歳の鯉のぼり
共に生いゆく孫よ羽ばたけ

原田 ヤスエ

ほしがたやたんざくちらすすしけーき
ひとりもたのしたなばたのよる

はらだ たえこ

くうしゅうのひのなかにげしよんしまい
みなすこやかにやそじをこえる

しいぎ みちこ

そらをきるじえっときおんがひびくあさ
これからほうふのなつははじまる

やまぐち まさこ

ちちのひにおくりしびーるのおちちの
ちよっぴりおいたにゅうわなえがお

ざいま せい

ゆびおればことはたちのこいのぼり
ともにおいゆくまごよはばたけ

はらだ やすえ

真っ白な障子はりかえ新しい私をさがす

吉野 由恵

かみあわぬ夫婦の鍵を愛猫があける

賤間 由美子

真新しい朝に夫婦ちゃわん

田中 律子

古里を森が食べていく

松富 美代

夕方のみかづき終いをいそがせる

西岡 悦子

まっしろなしょうじはりかえあたらしいわたしをさがす

よしの よしえ

かみあわぬふうふのかぎをあいねこがあける

ざいま ゆみこ

まあたらしいあさにめおとちゃわん

たなか りつこ

ふるさとをもりがたべていく

まつどみ みよ

ゆうがたのみかづきしまいをいそがせる

にしおか えつこ